

令和5年度（2023年度）
社会福祉法人いなほ福祉会 いなほ作業所 事業報告

1. 利用登録者数と利用実績（令和6年3月末）

【利用登録者数】 39名

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	21	22	22	21	21	21	23	21	23	20	20	21	256日
延利用人数	715	725	723	736	704	710	755	690	729	635	660	696	8,478人
1日平均	34.0	33.0	32.9	35.0	33.5	33.8	32.8	32.9	31.7	31.8	33.0	33.1	33.2人

令和4年度 延利用人数 9,107人 1日平均 36.0人

2. 職員体制

職 種	配置基準	現 員
管 理 者	1	1
サービス管理責任者	1	1
生活支援員	1	1
職業指導員	1	1 3
目標工賃達成指導員	1	1
調理員		3
送迎員		2
嘱託医	(1)	(1)
計	5名 (1)	22名 (1)

3. 今年度の重点方針

①成人分野事業所での共通した課題を協働して取り組んでいきます。

- ・「ワークショップ ゆう」プロジェクトチームにいなほ作業所職員も参加し、移転に向けた検討や取り組みを具体的にすすめました。
- ・主任級を含めた管理者会議を月1回定期的に開催し、諸課題の解決につなげました。
また、法人委員会活動への参加を通し、法人内課題に目を向けられるようにしました。

②福祉専門職員としての人材育成をすすめます。

- ・研修計画に沿って、他団体の研修に積極的に参加し、伝達研修により人材育成の強化を図りました。

4. 利用者への提供サービス

(1) 作業支援

安定した製造、作業技術の向上、廃棄を減らす事に重点をおいてすすめました。「工賃向上計画」に基づき、下記のとおり、製パン、製菓事業の充実をめざしました。

①製パン、製菓部門

1. 作業の見直しと効率化を図り、利用者が安心して働ける作業所作りを目指します。

- ・利用者とともに、商品の品質向上を目指します。衛生に関する意識を高めて、仕事やその環境づくりに努めます。

→職員の中にも品質へのこだわりを改善しようという意欲が生まれており、利用者とともにパンの出来について話すことが増えてきています。衛生管理についても掃除の頻度も増え、マスクや帽子の着用、粘着テープでの埃の除去や手洗いについても習慣化できました。このことが汚す・こぼすなどの行為に注意を払えるようになり、無駄を省くことにもつながっていると思います。

- ・販路拡大や販売量の増加にとらわれるのではなく、無駄な売れ残りや廃棄の削減に取り組みとともに、原材料高騰などの状況も加味して効率よく支出を減らすことに取り組みます。

→無駄を出さない効率の良い製造販売に取り組みだして3年目、大きな効果を発揮しました。一昨年度は数十万円の黒字を出して年度末手当を支給することが出来ました。この時に無駄を出さない意義も利用者に話し伝えてきた結果、昨年度は300万円ほどの黒字をあげ一人当たり4万円という年度末手当を支給することが出来ました。みんなで取り組んだ成果を実感できる体験ができたと思います。

- ・定着している物品販売や季節商品の販売などの事業を充実させます。

→定着している物品販売については順調に進めることが出来、利用者も商品の仕分け作業に参加している姿もあります。近年、優先調達に絡んだ問い合わせも多く、その注文にも対応することもでき物品販売事業としても収益をあげています。

- ・新型コロナウイルスなど感染症などの影響を受けない工夫をして、販売イベントや行事参加、店舗営業などについて、利用者や職員など関係者の健康への配慮をしながら進めます。

→新型コロナウイルスによる影響も収束してきたことから、昨年度は雪まつりなどの行への参加も行いました。パンまつりを含め行事への参加は好調で、多くの集客があり、収入もあがっています。

また、店舗も週に2回の営業ながら順調に運営できており、売り上げも一日12,000～22,000円程度の売り上げは確保できているうえ、利用者の積極的な店員としての参加もあり、社会性を養い活躍する場になっています。

新型コロナウイルス発生以来、インフルエンザも含めて「施設内感染0（ゼロ）」を維持できたことは健康管理と安全衛生管理の観点で、非常に大きな成果と言えます。

※仕事の計画性と効率化を進め、実践に目を向ける職員のゆとりを生み出し、利用者が働く喜びを感じながら、安定して共に働ける作業所としての役割を遂行します。

⇒利用者への工賃還元が十分にできたこともあり、この全体目標に大きく近づいた一年になりました。職員のゆとりをもう少し生み出すためにも、事前の予定調整をするなど支援体制の不足を生まないことに令和6年度は取り組んでいきます。

②中里出張所・下里出張所

1. 安心して仕事ができる静かな環境を整え、その時々調子や各自の状況に応じた柔軟な仕事や取り組みの充実を図ります。

→本体の様な大きな集団が苦手な利用者が「静かな環境で過ごしたい」という思いや「自分のペースで出勤したい」といった、一人一人、違うニーズの多様性を尊重し、精神的に安定して過ごせるよう環境設定を整えました。

利用者の対応に当たっては、職員も限定して数人の職員が曜日で交代し、できるだけ変化のないよう配慮しています。また、それぞれの特性や課題に対する情報と、個別に対応することができる余力を大事にしながら、各自の年齢や、障害特性に応じた仕事や、活動内容を模索しました。

今後も、出張所の利用者が、安心して、自分らしく過ごせるよう、職員がチームとして連携し、丁寧な支援が行えるよう、情報共有と意思統一を行っていきたいと思います。

③就労支援事業・収支実績

	2021(R3)年度実績	2022(R4)年度実績	2023(R5)年度実績(見込み)
年間売上金額(A)	23,789,805円	26,640,711円	30,498,958円
年間経費(B)	23,958,316円	25,519,544円	28,626,089円
年間利益(A-B)	-168,511円	1,121,167円	1,872,869円

④工賃支給実績

	2021(R3)年度実績	2022(R4)年度実績	2023(R5)年度実績(見込み)
平均工賃月額	19,497円	20,001円	25,836円
時給換算額	216円	231円	
年間工賃総額	9,787,640円	9,760,515円	10,267,535円
年間支払対象者数	502名	488名	8,478名(延べ利用者数)
利益の分配額		基本7,500円/人	基本40,000円/人

(2)生活支援

作業所実践や諸行事等での利用者・家族の要望(意見)を傾聴し、利用者本位の作業所運営となるよう取り組み、要望(意見)に対しては迅速な対応を行いました。

①土曜日の取り組み

平日は、製パン販売に追われるため、毎月第3土曜日(行事等により他の土曜日に変更有り)を活用し、作業以外の余暇活動を行ってきました。

土曜取り組みは、参加は利用者個々の判断(選択と決定)にゆだねています。興味のある活動内容には参加する等、自身で参加を判断するようになっていきます。多くの利用者が参加したくなるような企画を検討し実施してきました。

実施月	取り組み内容	参加利用者
4/15	パンまつり 【いなほ作業所】	36名
5/20	ドッジボール&ぼっちゃん 【旧三川小学校体育館】	21名

5/27	つくしんぼ歌謡祭	【体育文化会館】	27名
7/15	カラオケ	【カラオケハウス歌楽】	22名
7/22	パンまつり	【いなほ作業所】	29名
8/26	夏だ！カレー&かき氷	【いなほ作業所】	20名
9/16	映画鑑賞会	【いなほ作業所】	16名
10/14	パンまつり	【いなほ作業所】	29名
10/28	バーベキュー	【いなほ作業所】	15名
11/25	ボッチャ&カローリング	【旧三川小学校体育館】	16名
11/25	町展バザー出店	【体育文化会館】	2名
12/ 2	福祉健康まつり出店	【那智勝浦町福祉健康センター】	3名
12/ 9	新東スポーツ交流会	【いなほ作業所】	22名
12/16	クリスマスケーキとパスタを作ろう	【いなほ作業所】	(令和4年度8名33名)
1/20	新年会	【太地町白鯨】	25名
2/17	うどんを作ろう/雪まつり準備	【いなほ作業所】	22名
2/18	南の国の雪まつり出店	【南紀くろしお商工会】	34名
3/16	くろしお公園で花見	【くろしお公園】	23名
合計	土曜取り組み10回(前年度9回)/その他8回		380名

(令和4年度 333名)

②ハイツの利用

- ・グループホームに対するニーズの実態を把握しつつ、宿泊体験を実施しました。

〔宿泊体験実習 利用実績〕

利用者 3人 / 利用日数 30泊48日 / 職員同泊同行等支援 0日

③障害福祉サービスの活用

- ・必要に応じて本人や家族と相談支援事業所との仲立ちとなり、「障害福祉サービスの活用」につなげ余暇や生活面でも豊かな生活につながる事を大切に出来るようすすめました。

5. 緊急時の対応

緊急時の対応をする案件はありませんでした。

6. 事故発生時の対応

日付	事故等の発生状況およびその後の経過（損害保険利用状況等）
7月13日（木）	利用者が濡れた床で滑り転倒。（洗い物をしている床が濡れやすい状況なので、床に水がこぼれないように台の上で拭き、濡れた床はすばやく拭くようにする）

※ ヒヤリハット1件

7. 虐待および身体拘束発生状況

身体拘束説明書・同意書作成 2名

【虐待案件】 0件

【身体拘束発生案件】 0件

8. 苦情解決実績報告

受付日	申出人	苦情の内容	解決方法
4月12日(水)	利用者	職員に真似をされて嫌な気持ちになった。	虐待防止委員会で「不適切支援」と判断し、勝浦役場へ相談。 検討の結果、福祉課で留め、県への報告は必要ない事案との判断。

9. 職員（援助者）の援助技術の向上

(1) 職員会議の実績報告

・支援職員全体会議	→	2回開催
・職員会議	→	12回開催
・個別支援計画策定会議	→	21回開催
・モニタリング会議	→	23回開催
・給食会議	→	12回開催

(2) 職員研修の実績報告

【内部研修】

日程	主催	研修内容	講師	参加人数
4月22日	法人	虐待防止・人権擁護伝達研修 後日 伝達研修	福祉社会職員	16名 5名
6月6日	いなほ作業所	コロナ対応のための講座	いなほ作業所 平澤学	6名
7月8日	法人	会議の技術「ファシリテーション」を学ぶ	和歌山県立医科大学教育研究開発センター 平野 孝則氏	7名
9月30日	法人	防災教育と業務継続計画の周知	那智勝浦総務課防災対策 柴田通仁氏	6名
11月21日	いなほ作業所	職業評価業務について	いなほ作業所 笹英樹	6名
12月5日	いなほ作業所	わされん研修「優生保護法と今を考える」	いなほ作業所 平澤学	6名
3月5日	いなほ作業所	きょうされん 「未来カフェ」防災について	いなほ作業所 平澤学	7名
3月5日	いなほ作業所	新東障連職員研修 「和歌山県の防災・減災対策」	いなほ作業所 平澤学	6名

【外部研修】

日程	主催	研修内容	講師等	参加人数
5月30日	きょうされん	障害者権利条約からのメッセージ	きょうされん 赤松氏	1名
11月13日	就労部会	職業評価業務について	障害者職業センター職員他	1名
11月20日	わされん	優生保護法と今を考える	きょうされん 佐藤ふき氏	1名
2月29日	きょうされん	「未来カフェ」防災について	各種講師	1名
3月2日	新東障連	和歌山県の防災・減災対策	和歌山県防災企画課 柏木氏	4名